

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:156.

院内急変時対応の取り組み～救急カートの統一後に見えてきたもの～

練合若菜、三輪直子、伊藤廣美、柴山かおる、鈴木昭広、
藤田 智、石井真都佳、澤田みどり

院内急変時対応の取り組み ～救急カートの統一後に見えてきたもの～

○練合 若菜¹、三輪 直子¹、伊藤 尋美¹、柴山かおる¹
鈴木 昭広¹、藤田 智¹、石井真都佳²、澤田みどり²

(旭川医科大学病院救急部¹、旭川医科大学病院医療安全管理部²)

【はじめに】

当院では、昨年度円滑な院内急変対応（以下スタットコールとする）を目的として院内全部署の救急カートの基本物品統一に取り組んだ。今回救急カートの院内統一後の現状を明らかにしたので報告する。

【目的】

救急カートを統一した後の現状を把握し、院内の急変対応への取り組みへの課題を明らかにする。

【方法】

1. 急変時対応事例を振り返り、救急カート物品が有効に使用されているかを検証する。
2. 救急カートについてのアンケート調査と院内ラウンドを実施し、部署側の使用上の問題点を抽出する。
3. 1および2から見出された問題点への対応策を検討する。

【結果・考察】

昨年11月より救急カートを統一した後、8件のスタットコールを経験した。その事例の振り返りやアンケート・院内ラウンドの結果、組み立て式のバックバルブマスクがすぐに使える状況になっていない、新たに取り入れた物品の使用方法が理解されていないなどの意見が聞かれた。また、スタットコールが連続して発生した部署では、使用後の物品や薬剤の補充が間に合わず、物品の不足のままの対応になっていた。しかし、どの部署も同じ内容で使用しやすかったという肯定的な意見も聞かれ、救急カート統一の成果も実感できた。以上から、昨年度、急変対応への取り組みとして救急カートの統一を図ったが、救急カートの維持・管理が適切に行われていないこと、蘇生治療のための物品の使用目的が理解されていなかったことが課題として明らかになった。